

日ポ・サロン

20周年記念誌

1999—2019



(ワルシャワ大学正門)



ポーランド留学生支援団体

日ポ・サロン

目 次

巻 頭 言	日ポ・サロン設立20周年に感謝を込めて 代表 高島和子	1
祝 辞	ワルシャワ大学 東洋研究所副所長 岡崎恒夫	2
	ワルシャワ大学 日本学科長 アグネシカ・コズィラ	3
	ワルシャワ大学 前日本学科長 エヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ	4
	ワルシャワ大学 東洋学部日本学科教授 コルジンスカ ナプロツカ・イヴォナ	5
	神戸大学 国際人間科学部准教授 辛島理人	6
震災お見舞い	千羽鶴	7
日ポ・サロンの	あゆみ	8
招聘留学生名簿	(1999～2019)	9
応援留学生名簿	(1999～2019)	10
招聘留学生	メッセージ	12
応援留学生	メッセージ	25
活動報告	親睦見学会	32
	講演会	33
	コンサート	34
編集後記		

日ポ・サロン設立 20 周年に感謝を込めて

日ポ・サロン代表 高島和子



日ポ・サロンは'99年9月22日河合康子、故・牧吉子、岸本啓子、私の4人で立ち上げ、故・高島浩一在大阪ポーランド共和国名誉総領事より祝辞を賜り、ワルシャワ大学東洋学研究所副所長岡崎恒夫先生を顧問に戴いて71名の会員でスタート致しました。

留学生招聘活動は、2002年同志社大学に始まり、2004年ワルシャワ大学と神戸大学が大学間交換留学生協定を締結、その後は継続して神戸大学に留学生を招聘し1年間の生活費と渡航費支援を行っています。2019年20周年を迎え会員数は120名となり今期招聘留学生は18人目となりました。この間行事に招き応援したポーランド各地からの留学生は招聘留学生を含み80名を超えています。

ワルシャワ大学日本学科には言語学・哲学・宗教・近現代史・近代文学・古典文学・歌舞伎・能・人形浄瑠璃研究の世界的にも著名な教授方が揃っておられて学生達に授業を行い、とりわけ日本語習得に関しては入学以来の厳しいご指導のもと日本語検定一級合格者が群を抜いて多勢います。その日本学科から招聘した留学生達が真摯な態度で授業に臨み沢山の書籍を購入し各地を旅して日本文化に触れ成長している姿、そして卒業後は社会のよい働き手としていつの日か日本とポーランドの架け橋になって下さる事を夢見て活動しています。

今期20周年を迎え記念誌を発行するに当たり招聘留学生達にメールで連絡、現在どのように活動されているのかお尋ねしました。日本学科の卒業は論文提出時期で決まる為バラバラで、卒業生名簿や同窓会名簿がなく連絡がつかない人も多く残念ながら全員ではありませんが、社会にご家庭にと元気に活躍されておられるご様子が伺え嬉しい事でございます。

この度大変名誉な事に、前日本学科長エバ・ルトコフスカ教授の近著「ポーランド・日本関係史」に日ポ・サロンの留学生招聘事業について2ページに亘り行事写真と共に掲載下さいました。又、10月には神戸大学武田廣学長からこれまでの日ポ・サロンの活動に対し表彰を受け感謝状を授与される事となり、役員一同で大学に赴き謹んで拝受致し光栄でございました。

日ポ・サロンの活動は会員皆様の年会費と共に2年に一度のコンサートや5年に一度のポーランド旅行の収益金が留学生基金の元となり継続出来ています。又、寮生活用品の布団や炊飯器・鍋や食器等を提供下さり次の学生到着まで預かり、各地に案内し時には食事に招き話を聞き励まして下さった方々のおかげで良い思い出と共に全員が無事故で病気もなく無事に帰国しています。

一方、神戸大学に交換留学生を受け入れて頂くと同時に、神戸大学の学生がワルシャワ大学に留学出来ている事も日ポ・サロンが果たしている大きな功績の一つでございます。

改めまして会員皆様の長年のご支援に深謝申し上げ、今後も引き続き日ポ・サロンへのお力添えご支援をお願い申し上げます。

留学生達の将来が幸多いものでありますようにと祈りつつ、設立20周年のご挨拶と致します。

心からの感謝を込めて

日本ポーランドサロン発足20周年に際して

ワルシャワ大学東洋学研究所副所長
岡崎恒夫先生

1999年に日本ポーランドサロンが発足して、20年も経ったことに深い感慨を覚えます。

発足当時、会員の方の中にも、いったいポーランドはどこにあって、どんな国で、国民性はどうなのかははっきり把握されていない方もいらっしやったのではと思います。という私もポーランドに来るまでは、ポーランドに関する知識は非常に乏しかったのです。



50年前にポーランドに来て初めて、日本とは対極にあると思われた中央ヨーロッパのポーランドという国と対面したわけです。当時、ポーランドは社会主義国でしたし、その社会体制をはじめ、気候、風土、そこに住んでいるポーランド人を含めてすべて日本とは違って見えました。その頃もそうでしたが、今もよく尋ねられる「一体あなたはなぜポーランドに来たのですか」という質問です。私とポーランドのかかわりは極めて偶然的なものでした。結婚した妻がたまたまポーランド人だったからです。もし結婚相手がフランス人だったら、私の人生はまた大きく変わっていたことでしょう。こちらでもよく聞かれますが、どうしてあなたはポーランド人と結婚したかという質問です。そんな場合、私はいつもあなたはいったいどうして今の伴侶と一緒にになったかと反問します。ほとんど例外なく返ってくる返事が「たまたま」です。これを広義に一期一会と言っていいかもしれません。

話を日本ポーランドサロンに戻しますと、サロンが発足する前から、この一期一会が始まっていたのです。サロンの立ち上げに関わった人たちは以前から何らかの理由でポーランドと関りを持っていたのです。そんな人たちが何かの縁で結ばれ、ワルシャワ大学の学生を留学させるという目的でサロンを発足させ、10数名ものポーランド人学生との一期一会を果たしてこられました。私たちワルシャワ大学側も留学候補者人選の時にたまたまその時に最優秀者となった人を日本に送り出したというわけです。その留学生も生まれて初めて日本に行き、初めてサロンの方々に出会い、味わったことのない経験をしてきました。サロンの方々もそうです。いつか河合康子理事長が書いていらっしゃいましたが、今年どんな学生が来るかと考えると胸がわくわくしたそうです。空港で迎えた見知らぬポーランド人学生との初めての邂逅。これこそ究極の一期一会ではありませんか。普通だったら、地球の反対側にいて知り合うことも、意識し合うこともなかっただろう人と出会い、ある期間交流しながら同じ時空を共有することになります。その交流の中でポーランドという異国のことを知り、その歴史に興味を持ち、そこに住んでいる人々に共感を覚える、いわば見識を大きく広げる形になります。見識が広がるということは、自己に対する価値評価も拡大することになります。それがいつか澤瀉理事長が会報にお書きになっていた「ポーランドを知ることは、実に日本並びに日本人を知ることに繋がる」という言葉に表されていると思います。

20年を振り返ってみると、「たまたま」という偶然の連続が20年も溜まると、それは必然に変わるように思われてくることです。サロンに招待されて留学した学生が帰国後、ほかの場所に留学した学生との会話で自分たちは何と贅沢な日本滞在をしたことかと、異口同音に言うことから見ても解ります。

文科省にしても国際交流基金にしてもサロンとは受け入れ側の目線が違います。サロンのやり方は受け入れる学生の立場に立って、どうすれば当の学生の研究目的が果たせるかを細かく観察評価

したうえで、滞在中に何を見せどんな経験をさせたらいいかと考えるきめ細かな対応があります。ほかはそうは行きません。文科省にしてもそれほど行き届いた受け入れ態勢は整っていません。したがってサロンの招待で留学できることは初めは偶然でしたが、今やある形式を持った必然的な留学になっているという点です。

ポーランド学生を迎え入れることで今まで関心のなかったことに関心を持ち始め、考えてもいなかったことについて考え始め、経験しなかったことを経験することによって、留学生はもとより、自分たちの人生をも豊かにして来られた事がサロンの継続にあずかって力があったのではないのでしょうか。会員の方の多くが、このサロンのおかげでポーランド旅行をされました。このサロンに属していなければ、きっとこの国に来られることはなかったでしょう。

高島和子理事長をはじめ、会員の一人一人が実行してこられた活動については、近刊の「ポーランド・日本関係史」(エヴァ・ルトコフスカ著)の中に一項を設けて紹介されています。日本とポーランドが国交を開いて100年になります。その中でサロンの皆さんとの20年間にわたる交流史も一つの明確な事実として確立していることをお知らせします。

これからの皆さんのご活躍を祈念しつつ擲筆します。

ワルシャワ大学日本学科長
アグネシカ・コズィラ教授

日ポ・サロン発足20周年を心よりお祝い申し上げます。

神戸大学で学ぶワルシャワ大学日本学科の留学生たちを20年にわたってご支援していただいているご活動に日本学科一同、心より感謝申し上げます。

日ポ・サロンの皆様のおかげで、毎年日本学科の学生一名が神戸大学へ留学できるようになりました。ポーランドでは日本に関する資料がまだまだ乏しいため、日本への留学は、研究のための資料収集ならびに日本文化へのより深い理解を促すため、非常に貴重な機会となっております。



神戸大学への留学を可能にするため、皆様が設けてくださった奨学金に深く御礼申し上げます。

日ポ・サロンの奨学金のおかげで神戸大学に留学した13名の学生たちの話によれば、日ポ・サロンの皆様には留学中に本当にお世話になったそうです。日常生活に困ることは全くありませんでしたし、日ポ・サロンの行事や日本文化体験に招待されたことがとても楽しかったと帰国後も話しています。それを聞いて、私は日本学科長として親しい親戚のところへ私達の学生を送る気持ちになりました。

また、日ポ・サロンの皆様のご活動は神戸大学の国際交流に大きな貢献を果たし、今年神戸大学の武田廣学長から日ポ・サロンの高島和子理事長に感謝状が贈られたことに心よりお喜び申し上げます。

日本学科の学生達はポーランドと日本とのあらゆる分野における交流拡大に貢献できる人材になることを願っております。今後とも日本学科の活動のためにご協力いただければ幸いです。

心から御礼申し上げます。

日ポ・サロン20周年を記念し、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます！

サロン会員の皆様が20年もの間、情熱を傾けられ、日ポ間の友好関係の深化と、ポーランドとの文化協力という初志を遂げられたことは素晴らしいことです。また、ワルシャワ大学日本学科がこの間を通じて皆様から賜った、たゆまぬご支援に対し、日本学科を代表して感謝申し上げます。



貴サロンの発会式の2ヶ月後にあたる1999年11月26日に、クラブ関西で行われた集まりで、ヘンリク・リプシツ元駐日ポーランド大使とともに、お祝いの言葉を直接お伝えすることができたのは、とても幸せなことでした。その日の集まりは、ポーランドのピアニストによるコンサートとともに開催され、ポーランドと日本の国交樹立80周年にあたる1999年にふさわしい、素晴らしいイベントとなりました。数日後、ヘンリク・リプシツ大使とともに、国交樹立を記念した大規模な「ショパン ポーランド・日本展」(大阪アメニティパーク)の開会式に、組織委員会のメンバーとして出席しました。これは、まず東京で展示され、その後、ワルシャワとクラクフでも開催された展覧会です。すなわち、サロンは重要な記念の年に活動を開始したわけですが、これはとりわけ高島和子さま、河合康子さま、岸本啓子さま、故・牧吉子さまをはじめ他の方々のご尽力とイニシアチヴ、そして戦後初の在阪ポーランド共和国名誉総領事でいらっしゃる高島浩一さまのご支援により実現したものでした。

ポーランド・日本関係史を長年、研究してきた日本研究者として、サロンの皆様がポーランドに関心を持たれ、両国間の緊密な友好関係を実現するために精力的に活動され、日本においてポーランド文化を広めてこられたことを嬉しく思っております。さらに、ワルシャワ大学の日本学科として、また長年(2006～2013年)、その学科長を務めてきたものとして、私は皆様が基金を創設してくださったことに心から感謝しております。それによって2001年以降、日本学科の優秀な学生が年間奨学金を授与され、当初は同志社大学で、2004年からは神戸大学で学んでいます(2019年には、第18期の奨学生が旅立ちました)。奨学生だけでなく、関西に留学した他の学生たちも、皆様からの温かいご支援、ご配慮を頂いております。サロンの皆様のおかげで、日本学科の若い学生たちは、日本の文化についてよりよく学ぶことができます。遠足に参加し、有名な場所、美しい景観、あるいは桜や紅葉に驚嘆しています。また、伝統料理に親しみ、祭りや茶会、古典文学の読書会に参加し、さまざまなイベントを楽しんでいます。本当によくお世話になっております。心より感謝いたします。サロンの皆様は、ワルシャワ大学日本学科を、さまざまな方法で支援してくださっていますが、図書の寄贈もその1つです。2012年にご寄贈くださった『萬葉集注釋』(全22巻)は、私たちにとって、極めて大切なものです。

皆様は、実に多くのことを私たちにしてくださいました。本当に、本当にありがとうございます。

そして、今一度、皆様の実り豊かな20年の活動を祝福し、今後の貴サロンのご発展と、会員の皆様のご健康をお祈りいたします。

この度日ポ・サロンの創立20周年を迎えたことを、まことにおめでとうございます。記念誌の発行に、私どもにも機会をいただきまして、ありがとうございます。思いつくままに寄稿させていただきます。



私はワルシャワ大学日本学科に就職してから今年25年になりますが、ちょうど2001年に京都の国際日本文化センターに一月間滞在いたした時に高島和子様のおかげで日ポ・サロンのメンバーである河合康子様と岸本啓子様と初めてお目にかかりました。その時よりの念頭に置いていることは神戸大学の影山純夫先生の教室へご一緒に参りまして、将来の共同協力についてお話いたしました。その後ポーランドに帰ってから当時の日本学科長岡崎クリスティナ先生にお伝えして、2004年に大学交換留学生協定が結ばれました。ワルシャワ大学日本学科の学生達にとって日本へ留学する新たな機会が開かれました。

今でも思い出すことはポーランドのZakopaneという山の町に高島様、河合様と一緒に参りまして旅行中の楽しい時間をお過ごしいたしました。そして、忘れにくい出会いは2005年に日ポ・サロンのメンバーたちさまがポーランドへご訪問の時、私の主人のパベル・フィルコフスキが経営したMoonsferaというレストランでお食事を召し上がりまして日本学科の学生たちと交流なされる貴重な機会がありました。

ワルシャワ大学日本学科の学生達にとって日ポ・サロンのご援助とご活動がまことに有意義なものと存じます。毎年一人の日本学科の学生が日本へ留学できまして、日ポ・サロンのメンバーより暖かい歓迎と具体的な支援を受けております。また日ポ・サロンが様々なイベントをお催しになり、にぎやかで楽しいふれあいの場を作られ、日本人との交流できるように橋渡しにもなります。その交流活動は両国の相互理解・友好増進はもとより、両国の共同繁栄のための礎になることを確信しております。

日ポ・サロンの更なるご活躍、ご発展されますことをご期待申し上げますとともに、メンバー皆様方のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

Wszystkiego najlepszego z okazji 20-letniej rocznicy powstania Stowarzyszenia Przyjaźni Japońsko-Polskiej Nippo-Salon z Osaki.

日ポ・サロンの創立20周年を迎えたことを、まことにおめでとうございます。

Iwona Kordzińska-Nawrocka,
Katedra Japonistyki Uniwersytet Warszawski



神戸大学より感謝をこめて

神戸大学 国際人間科学部准教授
辛島理人先生

日ポ・サロンが誕生して20年となりました。まずはお慶び申し上げます。

ワルシャワ大学日本学科から来日して神戸大学大学院国際文化学研究科で学ぶポーランド人学生を支援していただいて15年が経ちました。これについては、国際文化学研究科のみならず大学全体としても大いに感謝するものであり、神戸大学学長からの感謝状が2019年10月に日ポ・サロンへ贈られました。日ポ・サロンの活動は、ヨーロッパとの関係を深めている神戸大学にとって、今やなくてはならないものとなっています。



神戸大学と日ポ・サロンの関係の歴史は、神戸大学とEU（欧州連合）の友好の歴史でもあります。神戸大学は、2005年に欧州委員会の資金援助を受け、EUに関する教育研究や文化活動を通じて日本・EU関係の強化に貢献することを目的とする、「EUIJ関西」を関西学院大学や大阪大学とともに設立しました。また、2014年からEUに関して専門的かつ学際的に学ぶことのできる「EUエキスパート人材養成プログラム（KUPES）」という教育プログラムを始めています。

EUと神戸大学との制度的な連携の深まりは、旧東側諸国のEU加盟とほぼ同時期に進んできました。

神戸大学にも新しい加盟国との交流が期待されており、ポーランドは最重要国となっています。そのため、ブリュッセルに続いて、2015年にはクラクフに「神戸大学ポーランド拠点」を設置しました。

神戸大学はポーランドにある複数の協定校と恒常的に交流を行っていますが、2004年から始まっているワルシャワ大学との交換留学制度はその柱です。学生の間でもポーランドへの関心は高まっており、交換留学枠は増える傾向にあるものの、留学希望者が多くなって（今年のように）激しい競争が発生する時もあります。また、ポーランド留学経験者の中には、グローバル企業へと進む者も少なくないため、ビジネスの世界で日本とポーランドを橋渡しする人間が増えることを期待しています。

西宮育ちの私は、東京での大学生活やオーストラリア留学を経て、2016年秋に神戸大学で国際交流の先端に位置する国際文化学研究科（国際人間科学部・国際文化学部）に着任し、日本とポーランドの交流の輪に加わることとなりました。今後も、両国を行き来する教員や学生が絶えず存在するという神戸大学の特性を活かしながら、「グローバル力」、あるいは具体的に「ポーランド力」とでもいうべき国際交流に関する地域資源の向上に関与するつもりです。留学生への心温まる支援に対し、日ポ・サロンに厚く御礼を申し上げるとともに、皆さまとの交流を今後も引き続き楽しみにしています。

◇ 震災お見舞い千羽鶴 ◇

2011年3月11日の東日本大震災の惨状にアグネシカ・コズィラ・ワルシャワ大学日本学科長は直ちに日本学科の先生方や学生達に呼び掛けて千羽鶴の作成及び学生達からのお見舞い文を当時の在大阪ポーランド共和国名誉総領事館に送って下さった。皆様は毎日毎日時間ある限り千羽鶴を折ったと聞きました。4月初めに届いたその熱い志を仙台国際交流センターにお届けし掲示下さったのを後日訪問時に撮影しました。又ラジオ3番が呼びかけコモロフスキ大統領が賛同、ショパンコンクール優勝者が楽曲を提供したCD「日本がんばれ！」も長くポーランド売り上げ一位になり利益は大使館を通し全額寄付されました。



東北のみなさんへ

チルチラスキ・岩文

こちら。ポーランド人のシモンです。ワルシャワ大学の日本学部の学生です。数年前から日本に興味があり、また大震災が起きた時、^{その}ときも心配しました。テレビに津波を見て、苦しい気持ちで出て来ましたが、その事件は全く酷いことです。しかし、日本人がもう一度全世界を驚かしたと思います。地震から、^{また}津波が来た、原子力発電所の事件が起きたと、国民は全く不安のように見えます。邪魔をなくして倒れ続けることは私にと、とてもいいことです。大知識は、^{いつも}いつもとても強い。だから一生懸命に頑張ります。今の生活をくじかんと、^{とても}とても辛くなるけれど、両方とも必ずすぐ見仕上る。そのお前は常態に飛戻ると信じています。もう一度頑張る、勉強をつけてくたさい。

ワルシャワ^ワ大学日本学部の三年生

東北のみなさんへ。

キルサフスキ・恩文

こちら、ポーランド人のシモンです。ワルシャワ大学の日本学科の学生です。数十年前から日本に興味があり、大震災が起きたと聞いてとても心配しました。テレビに津波を見て、苦しい気持ちできました。その事件は全く酷いことです。しかし、日本人がもう一度全世界を驚かしたと思います。地震から、たも津波から来た、原子力発電所の事件が起きたと、国民は全て安心ように見え、無駄をなくして倒れ続けることは休にと、ごさごいことです。大知識は、いふことと強いのから一生懸命に頑張ります。今の生活はよく人々と、とても辛く感じるけれども、再建は必ずすぐで仕上げ、て、再びは常態に戻ると信じます。もう一度頑張、て、愛をつけてくとい。

ワルシャワ^ワ大学経済科の三年生

東北のみなさんへ

僕はポーランドに住んでいてワルシャワ
大学の日本学科の学生です。金曜日の朝に
起きるとテレビで恐ろしいニュースを
見てしまいました。最初には地震の震央が
海にあると聞いて大丈夫だと思いましたが
すけど津波もあると知ることになりました。

週末の時にテレビとラジオがない所に行って
出掛けの前に被害者が五十人ぐういでした。

日本人は救急隊が上手でそんな事故にす
ごく準備できると思いました。家に
戻って来てテレビで聞くことはあつたとい
う思いました。

ポーランド国はまだ表向きの救済がないけれども日本学部の学生が千羽鶴を送ろうとしています。

赤十字の救済があるとせうにに必需品を物
を伝えます。その時までにはしつして下さい。

眼張って下ろい!!!

コレンダ・ドミニエツク

ワルシャワ大学日本学科・四年生

16.03.2011

SOLIDARNI Z JAPONIA

日本がんばれ!

FRYDERYK CHOPIN

KRYSTIAN ZMERMAN / RAFAŁ BLECHACZ
JANUSZ OLEJNICZAK / EWA POBŁOCKA
PIOTR PAŁCZYŃSKI / BARBARA HESSE-BUKOWSKA
ADAM MARADZEWICZ



CD「日本がんばれ！」

ポーランド留学生支援団体 日ポ・サロンについて

<あゆみ>

日ポ・サロンは、1999年9月に設立

2002年 10月から、ワルシャワ大学より留学生招聘 同志社大学へ1年間留学

2004年 神戸大学とワルシャワ大学間の学術交流協定締結以後、毎年1名の交換留学生を神戸大学へ招聘、継続して受け入れている。1年間の生活費支援

2019年10月 18人目の留学生を神戸大学へ招聘

<運営規則の概要>

目的：日本とポーランド両国の留学生支援と文化交流・友好及び会員相互の親睦を図ることを目的とする

事業：目的を達成する為、留学生支援事業を行う

・日本とポーランド両国相互の留学生支援・援助

・コンサート・講演会・講習会・展示会等開催

事業に伴う必要な人的支援は会員のボランティアとする

財産及び管理：会の運営は、以下の財産をもって役員会を行い、会計がこれを管理する

・会費・寄付金・事業に伴う収入

会費：年会費 5,000（個人）、20,000（法人一口）

会計年度：事業年度は1月1日～12月31日とする

会員数122名

<主な事業活動の概要>

・留学生招聘活動（毎年1名招聘、1年間の生活費支援）

日ポ・サロン奨学金給付留学生は、神戸大学国際文化部にて学ぶ

・コンサート（留学生支援活動として2年に1回開催）

・講演会

総会（1月）及び招聘留学生送別会の時

・ポーランド旅行

（5年毎にショパンコンクール・ガラコンサートとワルシャワ大学訪問等、文化交流親善の旅）

2020年10月 第5回実施予定

・春/秋の遠足（桜/紅葉巡り）

会員との親睦を兼ねる

招 聘 留 学 生・記 録

1999/9/22 日ボ・サロン設立

留学年		氏 名	大 学	研 究 内 容
2002	1	エリザ・スコブロンスカ	同志社大学	言語学
2003	2	アニタ・スモラルチック	同志社大学	日本文化・舞妓
2004	3	アダ・レヴィツカ	神戸大学	浅井 忠
2005	4	カタジナ・ヴィスポルスカ	神戸大学	鑑真和上
2006	5	ゾフィア・マフ (ゾシャ)	神戸大学	日本文化・舞妓・華道茶道
2007	6	カロリナ・アダムチック	神戸大学	アニメの中のキリスト教 アダム Rudzki
2008	7	モニカ・ヴォストフスカ	神戸大学	古今和歌集
2009	8	アガタ・ストツェレツカ	神戸大学	太宰治と三島由紀夫の自殺について
2010	9	マルタ・ヤクボフスカ	神戸大学	浮世絵・月岡芳年
2011	10	アンナ・ヴィエジヴィツカ	神戸大学	明治時代の「新派」
2012	11	マチェイ・コモロフスキ	神戸大学	50～60年代の日本映画
2013	12	マウゴジャータ・グラジュク	神戸大学	裂地について
2014	13	ヤコブ・グラジク	神戸大学	切支丹迫害のイメージ
2015	14	アグニエシカ・クライニスカ	神戸大学	ニーチェと仏教の関係
2016	15	トゥルスカ・ドブロミワ	神戸大学	開高 健
2017	16	ウルシュラ・アルチマイエル	神戸大学	吸血鬼の日本におけるイメージ
2018	17	ヨアンナ・ルチンスカ	神戸大学	新選組 土方歳三
2019	18	トーマス・ディモフスキ	神戸大学	萩原朔太郎の詩について

関西在住 日ポ・サロン 応援留学生（１９９９－２０１９）

	氏 名	研 究 内 容	大 学
1	アンナ ザレフスカ	平安時代部文学説話集	京都大学文学部大学院
2	佐々木 ボグナ ヤンコフスカ	宮澤賢治	京都大学文学部大学院
3	アグニスカ ビス	仏教と神道	奈良教育大
4	ヨアンナ クラフエジク	山岳宗教	奈良教育大
5	ウラ マハ	歌舞伎とその衣装	同志社大
6	イザベラ ブルジンスカ	化学	奈良女子大学
7	有川 アンナ ノビツカ	日本語日本文化	奈良教育大学
8	スタンコ ダリウス	統計学	大阪大学
9	アンジェイ ザプロスキ	茶道研究	
10	カタジナ ボラノウスカ	歴史	大阪外大
11	クラウディア マッキエヴィチ	化学	奈良教育大
12	シモン ウオジツキ	江戸文化	京都大学
13	スタニスラフ ジェロログスキ	賀川豊彦	同志社大
14	ダヌタ プレジンスカ	宗教	大阪外大
15	マルチン チリスキ	文学	大阪外大
16	モニカ ヴォヘチェック	情報工学	大阪大学
17	ヤニユシュ ミトコ	日本近代史	京都大学
18	ハルシカ コステッカ	歴史	大阪外大
19	ヌチエイ クラフチック		大阪外大
20	アレキサンドラ ヴォムソビチ	日本語日本文化	奈良教育大
21	ヨアンナ ブルシェヴィッチ	日本語日本文化	奈良教育大
22	原 ユスティナ ヴィエレッカ	日本文化文学（森鷗外）	大阪外大
23	カシャ ランパルスカ	現代女性作家（尾崎翠）	大阪外大
24	キング シュニヤック	日本語日本文化	奈良教育大
25	ユスティナ チャプレフスカ	生化学	奈良女子大
26	エヴァ ヘレナ	現代文学（干刈あがた）	大阪外大
27	エヴァ アンナ	言語学（天皇陛下への敬語）	大阪外大
28	グーフ ダリッシュ	言語学（日本語の歴史的考察）	神戸大学
29	アンナ ウイルコス	言語学（日本語と韓国語）	神戸大学
30	アグネシカ マージェフ	文化人類学	万博公園博物館大学院
31	プスミシュラップ ジャドシュ	経済学	大阪大学博士課程
32	エミリヤ ジャドシュ		夫人
33	トマッシュ オレイユシュク	日本現代史（日本と欧州連合）	大阪国際文化協会
34	ルイザ クロシンスカ	日本語日本文化	同志社大
35	ジャドシュ プレミスロウ	経済学	大阪大学博士課程

	氏 名	研 究 内 容	大 学
36	モニカ レスチンスカ	日本語日本文化	大阪教育大学
37	ゴシャ チトコ	日本古典文学	奈良教育大学
38	グジェガシ ドウドシ	幽霊	奈良教育大学
39	マリヤンナ ドリガス	陰陽道	
40	モニカ レチンスカ	宝塚歌劇	大阪大学
41	スザンナ ザボクセツカ	日本語日本文化	和歌山大学
42	アガタ ズナミエンケヴチ	日本語日本文化	奈良教育大
43	マグダレナ ヴォルフ	日本語日本文化	奈良教育大学
44	マルタ アレント	日本文学	大阪教育大
45	アドリアンナ ヤクボルスカ	日本語日本文化	大阪大大学院
46	片岡 カロリナ マリア	日本語日本文化	同志社大学
47	マルチン タタルチュク	日本語日本文化	京都大学
48	ヤコブ マルシャレンコ	言語学	大阪大大学院
49	カタジナ ヴイシュボルスカ		神戸大学
50	パウリナ ザレムスカ	日本語日本文化	同志社大
51	アリシャ ビオトコヴィツ	日本語日本文化	同志社大
52	アガタ ヴィエシヴォフスカ	経済学	神戸大大学院
53	モニカ レチンスカ ルフニェヴィ	近代政治	大阪大大学院
54	マリラ ハンナ オブシャースカ	経済学	神戸大学経済学部
55	ハルチェンコ アナスタシア		京都大学文学部大学院
56	ハニャ カマシェフスカ	日本語日本文化	大阪教育大
57	ユリア プライスナル	日本文化 歴史	立命館大学
58	イロナ マチエフスカ	日本語日本文化	神戸大学
59	アンジェイ ナラワニ	日本語日本文化	神戸大学
60	ナタリア カルボッチ	言語学翻訳理論	神戸大学
61	シュラック カミラ	日本語日本文化	大阪大学
62	ピアセツカ マルティナ	日本語日本文化	大阪大学
63	スカザ アレクサンドラ	日本語日本文化	大阪教育大

第1期（2002年）招聘留学生 エリザ ヨアンナ スコブロンスカ（同志社大学）



来日するのは長年の私の大きな夢だった。しかも、卒業論文に必要な日本の言語学に関する資料を集めるために来日するのだから、日本よりも他の所でいいはずはあるまい。

夢は実現して、今現在7ヶ月も日本にいる。そして、日ポ・サロンのメンバーが、両親のように世話をしてくれたので、日本の生活に完全に慣れてしまった。だからこそ、毎日無事に同志社大学の日本語のレベルを高める授業に参加することが出来る。その上、週末が来ると、普通に日ポ・サロンの会員や日本人の友達と一緒に日本文化を体験したり、適切な習慣を覚えたりするチャンスがあるだけでなく、私の大好きなスポーツ、すなわちテニス、バドミントン、卓球やゴルフなど練習する機会もある。

私はこの上もなく楽しい経験をしているといっても過言ではないと思っている。

日ポ・サロンの皆様、奨学金をどうもありがとうございました。

（会報3号より掲載）

第2期（2003年）招聘留学生 アニタ スモラルチック（同志社大学）

京都に留学してもう半年になりました。その間に色々な経験ができ日本の様々な顔も見ました。日本の顔というより京都の顔といったほうがいいでしょう。京都からあんまり旅行しなかったからです。時々ここに住んでいる人は、私のことを怖がりますが、多くの場合、手を貸し親切にしてくれます。



そして、日ポ・サロンのメンバーは日本の伝統的な習慣と特徴を紹介してくれました。

私の研究テーマが芸者だった為に、去年の11月に祇園に連れていただき、芸者さんと舞妓さんと実際に会わせてくれました。舞妓さんの踊りを見たり、芸者さんの三味線の演奏を聴いたり二人と話合ったりし、京都の花街の世界について凄く勉強しました。今も毎日の生活以外に齊藤先生が三味線の歴史と弾き方を教えてくれます。最初に難しいと思い緊張していましたが、今は本当に楽しくて、先生の金曜日の授業を首を長くして待っています。三味線を弾くことはまだ下手です。けれども、やる気があり一所懸命がんばります。先生はどう思いますか。

毎日の生活にも慣れ、友達もできました。そして京都の魅力に囲まれ、帰国を考えたら、悲しくなります。京都の町は綺麗なところがいっぱいあるし、言葉で言えない雰囲気もあります。生活にすばらしい場所と感じられます。

日本に来る前はいろいろ心配し、将来、一体なにをするつもりか分かりませんでした。今、自分の経験を日本についての知識を他の学生に伝えたいと思います。彼等たちもここに自分で来て、日本の伝統的な顔も現在の顔もわかってくれるように励ましたいのです。

このふたつの顔は、ポーランドと全然違いますが、面白くて価値があるに違いない。その全部の相違を理解するのは無理かもしれないが、少なくとも私たちの世界の知識を広くするでしょう。

この豊かな経験が出来るようになりましたことに、日ポ・サロンの皆さんに心から感謝いたしたいです。

（会報4号より掲載）

第3期（2004年）招聘留学生 アダ レヴィツカ（神戸大学）

私は、2004年神戸大学国際文化学部で1年間留学しました。

神戸はとても綺麗な海が一番の魅力ですが、自然が多くて住みやすかったです。ポートアイランドの神戸大学のインターナショナル・レジデンスに住んでいて、他国の方々と触れ合う機会が多かったのが嬉しかったです。



神戸大学で日本文化と日本美術についてたくさん興味深いことを学びました。日本学科の卒業論文に大変役に立ちました。卒業論文のテーマは「日本の洋画と浅井忠」でした。

日本で出会えた皆様には大変感謝しております。日ポ・サロンのメンバーのおかげで、留学生の私は、綺麗な景色を見たり、色々な日本人と文化交流ができたことは大きな収穫になりました。

私は美術に深い興味をもっているのも、自分が画家になりました。2018年にワルシャワ美術アカデミーを優等で卒業しました。現在は日本美術と自然からインスピレーションを得て抽象的な絵画を描いています。一番好きな画家は白髪一雄です。

第4期（2005年）招聘留学生 ヴィシュポルスカ カタジナ（神戸大学）



日ポ・サロンの皆様今日は、皆様にお書きできることを大変うれしく思っております。旧姓はヴィシュポルスカ・カタジナと申します。結婚してから、ランゲン・カタジナです。2001年から2007年までワルシャワ大学の日本学科の学生で、2005年に日ポ・サロンの奨学金をいただきました。日ポ・サロンのメンバーのおかげで初めて日本に来ることができました。神戸の学生寮に住んでいて、神戸大学国際文化学部の学生になりました。学部の授業も留学生センターの授業もたくさん取りましたから、とても勉強になりました。ポーランドに帰ってから「鑑真和上とその日本文化への影響」という修士論文を書きました。その論文の部分はポーランド東洋協会によって発行されました。

2008年に日本語教師の仕事始めて、2019年まで続いています。研究は日本語と日本文化が中心で、日本語教育に関する論文もいくつか書きました。一つの論文はポーランドに有名な科学雑誌に発行されました。内容は「なぜポーランド人の小学生・中学生にも日本語を教えるといいか」というのです。2010年に日本語と日本文化での「家」の特徴に関する論文を書きました。その論文は再び科学雑誌に発行されました。

2010-2011年に文部科学省の奨学金を得て、もう一回日本へ行きました。神戸大学国際文化大学院に研究して、国に帰ってから、2015年に博士課程を得ることができました。2016年に国際交流基金の奨学金を得て、三回目日本で研究しました。今までにワルシャワ大学東洋学部東洋言語センターで仕事をしています。5か月前から赤ちゃんが生まれることを待っていて、今は仕事を休憩しています。

日本で留学できてから、日本語の教師になることができました。けれども、私の2005年の来日は勉強のためだけではありませんでした。私は共産主義のポーランドに生まれました。共産主義のポーランドの店には品物があまりなく、労働者の給料も低く、ポーランド人は旅行があまりできませんでした。ですから遠い日本に行くのは子供のころから私の夢でした。しかし、家にはあまりお金がありませんでしたから、自分で留学できませんでした。日ポ・サロンのメンバーのおかげでその夢は実現しました。

日本の自然や古い建物や神社はお寺などの美しさを見ることができました。私が2005-2006年に見物した場所は：京都の清水寺・三十三間堂・嵐山・金閣寺、大阪、奈良の東大寺・唐招提寺・興福寺・薬師寺、飛鳥、法隆寺、姫路、東京、鎌倉、高松、高知、広島、宮島、別府、阿蘇山、熊本などを見ることができました。日本は美しい国で、素晴らしい写真をたくさん撮って、いい思い出がたくさん心に残っています。今も学生に日本語を教えるとき、プレゼンをしながら、その写真をよく見せます。日本人は自慢できるところがたくさんあると思っています。

ある場所に日ポ・サロンのメンバーに案内していただきました。日ポ・サロンのメンバーと一緒に厳島神社・広島・法隆寺・京都と奈良のお寺などを見に行きました。そして、おいしいお店に連れて行っていただき、おいしい日本料理が食べられました。お花見や京都の除夜の鐘や紅葉のときのライト・アップや大阪の文楽に連れて行っていただきました。とても感動的で、その思い出は心に残っています。

2011年にも日ポ・サロンのメンバーにいろいろ手伝っていただきました。その間に、博士論文のために高島先生の援助のおかげで北海道に行って、有名なピアニストの遠藤郁子先生の家に泊まりました。私がショパンの国に生まれて、ショパンコンクールに参加された偉い遠藤先生に知り合うことはすごく感動的でした。多くの日本人は音楽に美観そうで、ショパンの音楽が好きな人が多いから、いつも嬉しくなります。日ポ・サロンのメンバーにも何回もコンサートに連れて行っていただきました。それもいい思い出になりました。

日ポ・サロンのメンバーの皆様大変お世話になり、ありがとうございました。素晴らしい留学ができましたから、皆様に心より感謝いたします。

第5期（2006年）招聘留学生 ゾフィア マフ（神戸大学）



日ポ・サロンのおかげで日本に来られて、今まで本などからしか知らなかったことが体験出来て、とても感謝しております。特に高校生のときから興味を持っている伝統的な芸術を見物できたのは、よかったと思います。

日ポ・サロンから奨学金を頂いて、日本に参ることが出来て、一生感謝し続けます。例えば、3年生の時、学士卒業論文で近松門左衛門の心中物について書きましたが、実は文楽の劇をみたことがなかったのです。日本滞在をきっかけとして、大阪国立文楽劇場に行って、心中物が見られるようになりそれは今でもとても嬉しく思います。あとはお人形の主使いの話を聞いたり、近くから人形が見られたりして本当に感動しました。

一回は華道のワークショップに参加しました。華道が時々簡単に見えるのに、自分で作ってみたらとても難しかったです。ワークショップとともに華道の展覧会も行われていたので、色々な華道の種類が見られて楽しい一日でした。他には3回も茶道にも参加できました。実はその前、ワルシャワ大学図書館に作られた茶室で茶道に参加したことがあります。やはり日本のほうがきれいで、お茶も苦いのに美味しいと思います。そのほか、年中行事や祭りを経験したのは嬉しく思います。京都の時代祭り、葵祭、祇園祭に行きました。奈良、平安、鎌倉時代の服装を着ている人が行列をなして、町の中央を行進するのはとても面白かったです。祭りだけでなく、例えばお正月におせち料理を食べて、八坂神社へ初詣にも行きました。節分に奈良に行き、夜に春日大社の灯籠の光がとても魅力的でした。4月に日ポ・サロンの方と一緒に京都で花見をしました。桜の花が本当に綺麗でしたね。

今まで日本で過ごした10ヶ月の間、新しい経験をしたり、色々なことを勉強したり、たくさんのお友達もつくったりして、とても楽しかったです。日ポ・サロンの皆さま、いろいろな会ったり、手伝ったりしていただいて本当に感謝しています。お世話になりありがとうございました。

（会報8号より掲載）

第6期（2017年）招聘留学生 カロリナ アダムチック（神戸大学）

日本に来て以来、様々なことが経験できました。日本での学生生活を送って色々な国の人達と出会って、時間を楽しく過ごしました。

私の日本語が上達するために、留学生センターの色々な日本語の授業を選びました。会話や文法などの授業を受けたが、一番面白くて役に立つのは「読解」と「日本語特別演習」、のふたつの授業でした。いつも言葉の意味や文法の問題をうまく説明して興味深い話と冗談しながら日本語を教えた中西先生の授業はとても楽しくて、私は新しいことをたくさん覚えました。そして影山先生の「日本伝統芸術論」という授業のおかげで、今まで聞いたことがない芸術についても色々なことを習ったのです。

日本語を上手になることのほかに、私にとってもう一つ大事なことは、自分の研究分野に関する本を見つける事です。今までずっとアニメと漫画についての本や雑誌を探していて、私の卒業論文に役立つのがたくさんあるのを発見して本当に嬉しかったです。その本と雑誌に書いてある情報のおかげで修士論文に解釈したい作品も見つけられました。

神戸大学に勉強する間、様々な国から来た人々と友達になり、授業中に会うだけでなく、日本人の友達と一緒に料理を作ったり映画を見たり、旅行したりすることになりました。その人たちと過ごした時間のおかげで、日本の生活についてたくさんことを学びました。ごく普通のことだが、日本に来ないと、知っているようになる機会はないかもしれません。そして、私は日本の現代をよく理解するために、過去のこともわかる必要があると思うから、色々な歴史的なところに行って見物しました。京都や奈良にあるお寺や神社、そして姫路城などを自分の目で見ていて、その景色が私の記憶から消えるのは不可能だと思います。

これからも一生懸命に日本語を学んで、日本人の友達と話しながら習った日本語を練習して、時間を楽しく過ごせるのを期待しています。そして、様々な場所に行って、色々なことを見て、日本の文化にもっと詳しくなりたいと思います。そして帰国したら、いい修士論文を書けるために、自分の大衆文化の研究を続けるつもりです。

（会報8号より抜粋）



第7期（2008年）招聘留学生 ブウォストフスカ モニカ

11年前に日本に来ました。河合さんと戸堂さんに空港まで迎えに来ていただいて、金子さんに神戸の案内をして泊めていただきました。ドキドキしていました。

神戸大学国際文化学部ですぐに授業が始まって友達もできて日ポ・サロンの方々のお世話になりながら日々の生活を送っていました。

興味を持っていた和菓子作り、季節の花を楽しむ公園の散歩、各地の観光、日本の伝統の芝居や現代の芝居、色々触れることができました。たくさんの思い出ができました。とてもよい天気の日、彦根でのお花見は忘れられません。みなさま、覚えていらっしゃるでしょうか。

日本の滞在が終わってポーランドに帰りましたが、日本の旅行会社に勤めたり日本人の奥さんたちにポーランド語を教えたりしていました。また、オランダに引っ越して日本の企業に就職しました。オランダで知り合った日本人と結婚して、2013年からまた日本に住んでいます。日本中に引っ越すことが多いですが、娘（5）と息子（2）と夫と4人で元気にしています。今は大阪に住んでいますが、秋に関東に戻る予定です。大阪ではしばらくの間にハーフの子供たちのためにポーランド語の絵本の読み聞かせ会をやっていました。日本語の環境



の中でも頑張ってポーランド語を聞いたり工作などを作ったりしている子供たちと過ごせて楽しかったです。今は子育てをメインにして生活をしています。

子供たちと水族館に行ったりお寺の散歩に行ったり絵本を読んだりしています。せっかくなので、マルチリンガルの子に育てられるように言語の勉強もさせています。娘は絵や音楽が好きで、息子は今恐竜と電車に興味があります。私の好きなパン焼き、和菓子作り、料理をしながら幼稚園のお弁当の世界も楽しんでいます。子供たちの目線で日本を知るのも面白くて興味深いです。子供たちがおおきくなったら、食文化の研究をまた進めていこうかなと思います。また、色々調べたいことが残っています。11年前の留学ができてみなさまのお陰です。感謝しています。ありがとうございます。

第8期（2009年）招聘留学生 アガタ ストシエレッカ（神戸大学）



私は初めて日本来て、全部珍しいと思って驚いたことはいっぱいあって、これについて少し説明したい。まず、初めて関西空港に着いた時、エレベーター、階段など、どこでも案内してくれる人がたくさんいたことに驚いた。ポーランドの場合は、こういう案内が少なく、道を迷うといつも自分の力だけで全部をしなければならない。日本は逆だ。三宮で道に迷ってしまった時、まわりの人に聞くと、彼らは丁寧に案内して、目的の場所まで連れて行ってくれた。このようなケースが多くて、日本人にとって普通だが、私は「何で、ここまでしてくれるのかな・・・」と思いながら、日本はサービスの国だと分かった。

時々、お店に入ると、「いらっしゃいませ〜」という挨拶と同時におじぎをする定員さんたちに、初めのころはちょっと照れ臭く、「何かを買うつもりではなくて、見ていただけなんですけど・・・」と申し訳なくなったりして、こういう体験にはビックリした。「お客様は神様」という表現も習った。ポーランド語でも「お客様は王様」という表現があるが、ヨーロッパでは守る人があまり少ないので、そこは日本と違う。

ファッションのこと。日本のオシャレのスタンダードはポーランドのものと全然似ていない。色の組み合わせも洋服スタイル、靴、髪型などもビックリした！こんなカラフルなスタイルを初めて見たから。緑色のズボンとピンクの靴、黒い帽子といったコーディネート・・・。ヨーロッパのオシャレといえば、基本的に色は二つだけの組み合わせで、クラシックな色彩（黒、白、ベージュ、グレー）の長いスカートかドレスなどだ。又、リボン、ハート、レースなども、ヨーロッパで子供っぽいイメージで人形みたいなスタイルになるので、ポーランド人の女性が使わない物だ。なので、日本の女性は何歳か、見た目では判断ができない！日本の女性はお化粧もちゃんとしているので、最初「化粧してなくて同じ人に会ったら、分からないかな〜？」と思った。ヨーロッパ女性はあまり濃いお化粧をしない。時間もかかるでしょう？日本の女性は、朝、外出する何時間前に起きるのか知りたい！たぶん聞いたら、もう一度ビックリする。その上、彼女たちはトイレとパウダールームの中だけでなく、電車の中でも、重い化粧ケースを持って、お化粧するところをよく見ている。それから、もう一つのビックリしたことは、日本人は友達と遊ぶとき、自宅にあまり友達を呼ばないということだ。日本人が友達と遊ぶときは、必ず外出して、レストランで食事したり、カラオケなどで遊んだりする。自分の家に誘うということは、とても親しい雰囲気を作るためだ。

こんな珍しい日本に、もう、だいたい慣れたが、毎日新しいことでビックリする。けれども、こんな様々な経験のおかげで、私の日本文化と日本社会に関する理解を深めると思う。

（会報10号より掲載）



留学の時大変お世話になって誠にありがとうございました。日ポ・サロンの方々ののおかげで留学の時はたくさん貴重な経験して、いい思い出ばかりになりました。私は留学の時初めて来日しました。その時日本語を聞き取ることがあまりできなくても、日本の料理の味が最初にちょっと変だと思っても、最初の日から日本が私の家のように感じました。その時は日ポ・サロンの方々が私にとって家族みたいになりました。空港に迎えに行ってもらったことから、奈良のお水取りや天神祭など日本の行事に連れて行って日本の文化についての数えられないご説明ということまで色々大事な手伝いを頂いて、日ポ・サロンの方々のお心遣いをありがたく思いました。そして、奈良、京都、備前、広島や宮島など私が自分で行かない名所に連れて行って頂いて、宝塚、文楽と私の大好きになった歌舞伎の演劇に二回も誘って頂いて、本当に感謝しました。岸本様のおかげで経験できた本物の日本のお正月や沢山様の美味しい家庭料理や高島様に連れて行って頂いた沢山の京都への旅行（花見と茶会、すき焼きレストラン、歌舞伎の演劇など）を今もよく思い出しています！留学の時はすごく楽しくて、貴重な経験で、私の日本美術の研究にも大変役に立ちました。

帰国の後で、日ポ・サロンの皆様の、資料を集めるのお手伝いのおかげで、卒業論文を書いて大学を卒業しました。最初に社会人になったのは日本語のコンテンツ・レビューアとして働き始めたということでした。残念ながら8ヶ月のプロジェクトなので、すぐ他の仕事を探しなければなりませんでした。また日本語の関係の仕事を見つけるのがちょっと難しかったから、ヘイズという人材紹介の国際会社に勤めることにしました。リクルートメント・コンサルタントとして働いていた四年間の後で同じ会社でポーランド支社のトレーナーとして働き始めて、今年の2月からインタナショナル・トレーナーに昇進しました。ヨーロッパの様々な国の支社で研修を行うという仕事です。ほとんど毎週違う国に出張して働きますから、本当に面白い仕事だと思って、今一人暮らししていますので大丈夫です。私は日本の関係の仕事をしていないのに、日本のことが私にとって相変わらず大事です。五年前、追加の活動としてワルシャワで毎年行うポーランド人に日本文化を照会する日本祭りというイベントに参加しました。最初にボランティアとして、次の年はボランティア班で活動する日本祭り実行委員会の委員になって祭りの準備を手伝います。そして日本が本当に懐かしくなりますから、3回に春と夏休みの時日本への旅行して、その時まで行ったことはない場所を訪れました。主に東京、松島、金沢や伊勢などに行きました。そして、6年間初釜だけに参加していた後で、今年も落ち着く気持ちを探してワルシャワである裏千家の稽古に戻ることになりました。

私は日本語の関係の仕事をしなくても、留学生の時得た国際的な経験が今の仕事にも役に立って、今も日本のことに深い興味があって、ずっと大事に思います。日ポ・サロンの方々のポーランド留学生に対してのお世話が本当に貴重なことだと思って、私は日ポ・サロンのお手伝いを頂いて本当にラッキーだったと思います。ありがとうございます。よろしくお願いします。

第10期（2011年）招聘留学生 アンナ ヴィエジヴィツカ（神戸大学）



皆さん、こんにちは。アンナと申します。今年の日ポ・サロンにサポートしてもらっている留学生です。皆さんのおかげで留学できるようになって有難うございます。私はもう半年くらい神戸大学で勉強しています。私の選考は日本文化で、特に日本演劇に興味を持っています。学士で歌舞伎について論文を書きましたが、今、修士課程で明治時代の新派劇を研究しています。新派劇は伝統的な歌舞伎と西洋演劇を結合されて、素人の俳優たちに演じられたものでした。演劇学者によくあまり価値のない演劇だと思われていますが、私は先駆の現象として非常に面白いと思います。残念ながら、もう見られなくなった演劇です。

専攻研究の他には、日本語の勉強に集中しています。将来はポーランドにある日本企業に勤めたいですから、留学の時、出来るだけ上手になりたいです。日本語は、特に漢字は難しいですが、一所懸命に頑張りたいと思います。しかし、留学ということは勉強だけではないと思います。日常生活の場合、私は毎日新しいことを経験しています。世界中の留学生の友達ができまして、日本だけでなく、色々な国の文化についても面白いことがたくさんわかりました。友達と一緒に紅葉や梅の満開などを見に行きましたが、今一番有名な桜を楽しみにしています。

私はこのような楽しい生活を送るのはありがたいことだとよくわかります。このことを諒として、そんなに運が良くない人に出来る限り手伝いたいと思います。そのため、留学している間にチャリティーをしようと思いました。ポーランドでは毎年1月頃、1年で最も大きいチャリティーを行っています。クリスマスチャリティーのオーケストラと言います。ある日曜日に、ボランティアたちが全国で募金箱をもってお金を集め、政治家やセレブやスポーツマンなどが寄付してくれたものが競売されています。今年集まったお金は、未熟児の弱い命を救うために使われることになっています。私もこのチャリティーを応援したかったので、私が通っている六甲教会と日ポ・サロンの総会でバザーをしました。ポーランドの色々なお土産を売り、全部で4万6千円が集まりました。

皆さんに応援していただいて、ありがとうございます！

（会報12号より掲載）

第11期（2012年）招聘留学生 マチエイ コモロフスキ（神戸大学）

2012年—2013年、日ポ・サロンの支援で神戸大学に留学しましたマチエイ・コモロフスキです。この1年は、間違いなく最も大きな影響を私の人生に与えました。神戸大学・国際文化学部での勉強は、翌年の卒業のためにとても意味のあるものになりましたが、それ以外に他の経験も忘れられません。



日ポ・サロンの方々の優しさによって雅楽のコンサートや、曲水の宴、茶道の教室、ひな祭りなどの日本文化に心底浸ることが出来ました。また皆様と時間を過ごす中で、本物の“和食の味”を理解し始めました。旅行では、美しい日本の景色を写真にすることも出来ました。

この1年の留学の後、ポーランド大使館でインターンシップに入り、そこでポーランド文化の宣伝をする妻に会い2016年3月から日本に住むことになりました。あの時の神戸での経験があったからこそ、昔から持っていた夢の“ポーランドと日本の架け橋”になる今の仕事が出来ていると思います。

日ポ・サロンの皆様、本当にありがとうございました。

第12期（2013年）招聘留学生 マゴージャタ クラジク（神戸大学）



マゴージャタ クラジクと申します。去年の10月から日ポ・サロンのおかげで日本に留学しました。3年間トルンの日本学科と2年間のワルシャワ大学の日本学科で日本文化と日本語を勉強しました。主に日本伝統文化に興味があり私の研究テーマは、お茶で使われている裂地という古い布です。ほぼ1年間、皆様のおかげで大事な経験と知識を得ました。心より感謝いたします。研究のための活動や日本文化について知識を広げるため、旅行、大学で勉強したことなどありますが、ボランティアで日本人学生にポーランド語を教えました。今年は、神戸大学から5人ぐらいの学生がワルシャワ大学に留学しました。帰国したら、日本人留学生と交流を続けたいです。

研究テーマの裂地について、茶道に使われている染織品は裂地と言います。私の論文においてその布の文様、色、由来などについて説明したいと思います。裂地は、茶道において広く使用されています。たとえば、掛物の表具、茶入れの仕覆、帛紗、小物類などとして使用されています。裂地は茶会の時ではよく見逃すことがあるかもしれませんが、実は奥が深いです。織り方が様々あるだけでなく、布の種類も多いです。布の文様と名称には様々な物語や情報が隠れています。芸術を鑑賞するように、ただ見て楽しめますが、コンテキストを理解すれば、茶道具の取り合わせをより深く理解し、茶事やお茶会を別の視点から体験できます。切地の役割は道具を守ると美しさを引き立てることです。文様のタイプもいくつかあり、パターンによって分けると植物文様、動物模様、吉祥模様、自然模様、天象模様、幾何学模様などあります。裂のタイプも沢山あり、もっとも代表的なのは、金襴、緞子、間道、錦、風、紹杞、モール、金紗、印金、海気、ビロードと言われます。布の由緒についても研究します。例えば、道元緞子は、道元禅師が床から持ってきた袈裟裂から由来します。そういう研究はポーランド語で今までなかったもので、ポーランドでお茶を稽古している皆さんにとって役に立つと思っています。留学中勉強したことを活用し、日本とポーランドの架け橋になりたいと思っています。日ポ・サロンの皆様のおかげで、日本語と日本文化を学び、修士論文の資料を集めました。

本当に感謝いたします。皆様、有難うございます。

（会報15号より抜粋）

第13期（2014年）招聘留学生 ヤクブ ハリウオ（神戸大学）



私はヤクブ・ハリウオと申します。日ポ・サロンのご支援のおかげで、2014年10月から2015年8月まで神戸大学の国際文化学部で留学できました。その時、私はワルシャワ大学の日本学科の学生でした。日本に来る前にすべての試験はもう合格できていて、残っているのは修士論文だけでした。そのため、留学の主な目的は修士論文に必要な資料を集めることでした。私の専攻は日本の宗教で、修士論文のテーマは「日本の大衆文化におけるキリシタン迫害のイメージ」でした。そのテーマをもっと研究して、自分で歴史を味わうために九州へ旅行しました。4日間旅行の時、長崎、平戸や生月島の教会・キリシタン歴史と遠藤周作の生涯や作品に関する博物館・原城の城跡などを現物しました。その時まで本だけで読んだ場所を自分の目で見て、その雰囲気を感じることができて、とても感動しました。キリシタン歴史と文化の研究については、九州旅行だけでなく、東京にも行きました。しかし、旅行以外には、他の活動もたくさんしました。日本語と日本文化（映画技術・天皇

観の歴史)の授業を受けたり、日本人の友達と他の留学生と遊んだり、日ポ・サロンの親睦会などに参加したりしました。ただし、学生として勉強することだけではなく、先生の体験もできました。日本ポーランド協会関西センターが西宮で開催したポーランド語勉強会でポーランド語の発音・文法などを参加者に教えて上げました。ポーランド語とポーランドの文化に興味がある日本人と接触することは非常に貴重な経験だったと思います。

留学の時に住吉国際寮という寮に住んでいました。「国際寮」というなら、共通の浴室で洋風なシャワーなどが並んでいると思ったけど、違いました。初めて浴室に入って、全裸の日本人の学生を見たとき、とてもびっくりして、自分の部屋に帰りました。しかし、そのような状況は普通だと教えられた後で、寮のお風呂にもう一回入ってみて、やっと慣れてきました。和風の浴室だけでなく、日本生活の他の部分にも慣れてきました。特に、時間表通り到着して、出発する電車やバスなど、ポーランドでも欲しいですね！ただし、留学の時、ポーランド生活のある習慣は日本でも維持しました。私はカトリック信者だから、毎週の日曜日に教会に行きます。神戸に住んでいた時には、神戸大学のキャンパスに近い六甲カトリック教会へミサに行きました。母国から8,500キロ以上で離れていて、文化が全く違う国でも、日ポ・サロンの金子さんなど、同じ信仰をしている方と会って、経験をお互いに共有できて、私はとても嬉しくて、強く心を動かされました。

私はポーランドに帰ってから今までずっと実家で家族と一緒に住んでいます。実家はオポーレという町にあります。オポーレはポーランドの西南の方にあるポーランドの一番小さい県、つまりオポルスキエ県の県都です。帰国した後、ここで、一年間で日本留学の時に集めた資料をよく読んで、修士論文を作成しました。やっと、2016年7月に修士論文を提出して日本学科を卒業しました。

大学を卒業した後に、すぐ就職できました。2016年8月から日本語の通訳者・翻訳者として仕事をしています。今まで色々な依頼に対応していたが、2年半前からずっと在ポーランドのトヨタ自動車工場で働いています。まず、2016年3月からバウブジフ工場です。バウブジフは、オポーレから166キロ離れている町です。あそこで仕事をしていた時には、毎週の日曜日に電車でバウブジフまで行って、バウブジフで会社のアパートに泊まって、平日に毎日バスで工場まで通っていました。そして、毎週の日曜日に仕事が終わってから、電車でオポーレに帰りました。2017年7月にやっと自分の車を手に入れられて、バウブジフと工場までの通行はもっと楽になりました。(車はもちろントヨタです！)それから、実家から出発の日が日曜日から月曜日になりました。8時まで会社に到着できるように、5時30分ごろ実家から出発しなければならませんでした。少ししんどかったですが、日曜日の夜も家族や犬と一緒に過ごせるようになったから、非常に嬉しかったです。

今は、2018年6月からイエルチ・ラスコピツェ(略でイエルチ)にある他のトヨタ工場です。イエルチは、オポーレから75キロぐらい離れていて、バウブジフより近いので、毎朝、車で通勤します。会社への行き帰りは、毎日2時間以上かかるけど、仕事の後で家族と時間を過ごせるし、自分のベッドでも寝られるので、文句は全然言いたくないです！翻訳者・通訳者の仕事はあまり易しくないです。今は、トヨタ自動車がたくさんの新しいプロジェクトを導入しているので、とても忙しい時期になっています。その上で、訳者の仕事を始めてから、工業・技術・産業などに関係がある専門用語(特にトヨタ用語)をたくさん勉強しなければならませんでした。分からない範囲はまだ広いけれども、毎日頑張っていて新しい言葉や表現を勉強して復習しようとしています！留学の時、日本語の授業に参加して毎日、日本人と触れ合うチャンスがあったおかげで通訳者・翻訳者の仕事ができるような日本語能力を身につけられたと思いますので、留学の時に日ポ・サロンからいただいたご支援に対して、皆様に心の底から感謝いたします！これからもよろしくお願いいたします！

初めまして、クライニスカ アグニエシカと申します。ワルシャワ大学の日本学科修士課程一年生です。交換留学生として、神戸大学国際文化学研究所で勉強しています。私はポーランドの北グルジョンツという町に生まれ、今はワルシャワ大で勉強するためワルシャワに住んでいます。専門は宗教と哲学です。幼いころから日本の文化に興味を持っていました。日本学科に入学したきっかけは、日本語という美しくて面白い言語を勉強したかったからです。ヨーロッパの言語の中には、やっぱりポーランド語や英語と文法や単語などの点で似ているものが多いのですが、私はまったく新しい言語を勉強したかったので日本学科に入学してみました。



ワルシャワ大学の日本学科のコジラ先生の宗教についての授業のおかげで、初めて神道と仏教に興味を持つようになりました。修士論文では、「ニーチェと仏教との関係」について書きたいと思います。なぜなら私は高校の時に哲学の面白さがわかるようになったからです。初めて哲学について勉強し始めたのは、高校のポーランド語の先生のおかげです。その先生は高校の最初の一週間にクラスのみんなを全国的な哲学のコンクールに参加させました。論文を書くために準備をし始めると、哲学は思っていたよりも興味深いものだと感じました。それだけでなく、哲学には人の意見や考え方を変える力があります。私の意見や考え方もずいぶん変わりました。その先生のおかげで、私はそのコンクールに三年間毎年出るようになりました。その時から哲学に興味を持つようになりました。ニーチェを今現在、私が熱中している日本文化と結びつけることが出来てとても嬉しいです。

私には興味が色々ありますが、特に二つの大好きなものがあります。それはスケッチや水彩画の絵を描くことと、自然にふれることです。幼い時から自然などをたくさん描きました。中高の時短時間、絵を描く学校に良く行きました。しかし、時間が無くなって、高校の時、描くことをやめました。けれど去年の冬に高校の時以来、再び描き始めました。もう一度何かを描くのはよかったです。また、練習しようと思います。描くことだけでなく、私は自然が言葉に言えないほど好きです。ポーランドで実家に帰るとき、森で散歩することが大好きで、家の隣にある森に散歩に行きます。鳥が鳴くのを聞いたり、ゆっくり歩いたり、木を抱擁したりするとすぐ心が落ち着きます。シカや冬に白いダマシカをよく見ることもできてとても嬉しいです。

来日してから、日本人の方々は「日本に来てびっくりしたこと」という質問をよく聞かれます。実は日本文化、習慣、歴史などについて、ずっと四年間必死に勉強しましたし、日本滞在は三回目なので、初めて来日した時ショックは小さかったと思います。

いま一番びっくりしたのは、お正月の時です。クリスマスとお正月は、日本とポーランドで祝い方が逆ということは知っていましたが、日本では真夜中に花火を上げないと聞いて、ちょっとびっくりしました。一応日本での生活にも慣れたと言ってもいいと思いますが、今から少しびっくりすることは多分多く浮かぶかもしれません。

今まで日ポ・サロンの方々ののおかげで、普通は得にくい経験が出来ました。落語、お餅つき、人形浄瑠璃、様々な日本料理などを経験して、言葉で表せないほど感謝しております。

日ポ・サロンの方々ののおかげで、今現在の私はすごい思い出をたくさん作れるので、まことにありがとうございました。

（会報16号より 掲載）



2016年10月に日ポ・サロン招聘留学生として来日しました。ワルシャワ大学で応用言語学を専攻し、ポーランド語、ドイツ語、英語の翻訳を学びました。

日本語は一番好きな言葉でしたが、ポーランドには日本語を活かせる仕事が少ないので、ドイツ語と英語を学ぶことにしました。応用言語学修士課程1年生の時、日本学科の学士課程無しで日本学科の大学院の入学試験を受けることにしました。そのために、夏休みの時、独学で漢字や文法を覚え、2015年10月に入学試験に合格し、日本学科の学生となりました。それから2つの大学院に入りながら、多くの授業を受け、日本語の勉強はもちろんのこと、応用言語学科の修士論文をも頑張りました。

去年の10月に来日してから、日本でしかできないことをしてみたいと思い、ちょっと珍しいことに挑戦しました。例えば大晦日の前に黒門市場でふぐ屋さんを手伝わせてもらいました。魚市場に行った日、そこの賑やかさに驚き、最初はおとなしい私には魚市場では働けないと思いましたが、諦めずにやってみることにしました。やってみたらその楽しさがわかり、8時間もお客さんを呼びこんだり、ふぐやカニを売りました。適切な服を持っていないので、靴やズボンはビショぬれで、閉店前の大掃除まで一生懸命に頑張りました。その上、東洋拳法サークルにも入部し、先輩や監督から、様々な技を教えてもらい、楽しい雰囲気の中でいい時間を過ごせました。

神戸大学では、様々な日本語の授業を受け、上達のために会話、作文、聴解、漢字、語彙や日本語能力試験の対策授業を受けています。来日中、日本語能力試験N1を受ける目標を決めていました。留学のおかげで思っていたより早く、去年の12月に受験できました。さらに辛島先生の「日本学演習」という授業を通して、日本全国や京阪神の文化や歴史などを勉強しています。

卒業論文は、大阪出身の開高健について書きます。卒業論文の一部として、開高健の「裸の王様」と「パニック」という作品をポーランド語に訳さなければなりません。翻訳してから「裸の王様」、「パニック」、「日本三文オペラ」に描かれた個人と社会の関係を検討します。

将来の大きな夢は、日本かヨーロッパの日本企業で就職することです。そのために、大学のグローバルキャリアセミナー、気になる企業のインターンシップ、ジョブフェアや交流会などに顔を出し、日本人と共に様々なグループワークに取り組みました。その経験の影響で日本人みたいに日本社会に積極的に参加することが出来、能力的や精神的に成長できました。将来、日本で習ったことを生かして、仕事上で日本人と上手にコミュニケーションを取りながら仕事をしたいと思います。

去年の10月から日本の日常生活や行事などを何度も体験できました。日ポ・サロンの方々のおかげで紅葉の時期に山に囲まれた、景色の美しい村で人形浄瑠璃芝居を楽しみ、11月の紅葉狩りの時、栄西禅師が伝えた茶の木がある建仁寺を参拝し東本願寺の涉成園で紅葉を愛でたりでき、豊かな自然の中で幸せで胸いっぱいの素敵な一日を過ごしました。クリスマスには、美味しいチキンをごちそうになり、お正月前にはお餅つきをさせていただき、親睦を深める機会が多くあったと存じます。日本文化を体験させていただき心から感謝しています。

この留学を通して、私の大きな夢が叶いましたし、素晴らしい方々に出会えたので、残っている日々を大切にしながらもっと頑張っていきたいと存じます。皆さん、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（会報17号より抜粋）

第16期（2017年）招聘留学生 アルトマイエル ウルシュラ（神戸大学）

アルトマイエル・ウルシュラと申します。ワルシャワ大学で日本語を勉強し、日ポ・サロンのおかげで神戸大学に留学できました。神戸で楽しい一年間を過ごしました。非常に貴重な思い出になり大事な経験でした。日本に到着してからすぐ日ポ・サロンのメンバーに迎えられて、初の日本で泊まった夜でも日ポ・サロンのメンバーのお宅で過ごしました。始めからみんなは家族と同じように優しくしていただいて、私の日本の家族になりました。感謝です。



日ポ・サロンのみんなのおかげでこの一年間の留学は非常に満足できました。1年はあっという間の留学生活でしたが貴重な思い出になりました。一年間で修士課程論文のため様々な資料を集めて、とてもいい論文を書けました。資料は思ったよりたくさん集めて100ページぐらいの論文を書いてもまだ資料が残っています！いい勉強になって、とてもいい研究でした。来日の一番大事な理由は研究ですけど、この一年間で学んだ事は論文だけではなくて、たくさん役に立つ事を学びました。私の日本語の能力はまだそんなに高くないけど、前と比べて日本語で話せる自信を高めて、言いたい事は自由に言えると思います。日本語で話す自身があります！そしてこの留学は研究や勉強だけではなく、たくさん友達出来ました。様々なイベントに連れていかれました。たくさん素敵な所を観光できました。どのイベントでも、どの行った観光地でも大事な思い出です。

多くのイベントや観光は日ポ・サロンのメンバーと一緒にできました！紅葉をみて、桜を見て、ハイキングして、日本の家庭料理を味わったなどです。今あの頃のイベントや観光などについて考えると心は温かくなって感謝に気持ちでいっぱいになります。

帰国してから論文を完成し、日本学科を卒業できました。でも、卒業する前に新しい仕事を始めました。今はメロディーツアーという会社で働いています。メロディーツアーというのは日本人向けポーランドの旅行会社です。個人的ツアーの担当者になって毎日仕事で日本語を使って満足できる仕事です！日本人のお客様にポーランドを見せたいのでオフィスにいない日には時々簡単なガイドなどもやってみます。もちろんまだプロのガイドではないですけど、ポーランドに来る日本人のお客様と会えるのは楽しいですから頑張ってワルシャワを案内してみます。メロディーツアーのオフィスの仕事もとても楽しいです！時々難しくても忙しくなりますが、お客様から「ポーランドは楽しかった！ツアーを手配してくれてありがとう！」などのメッセージをいただくとまた元気になります。ずっとメロディーツアーの仕事にいますか近いうちに新しい仕事を探すかまだ分かりませんが、今はメロディーツアーの仕事はとても満足できるのでこんないい仕事を見つけてうれしいです。

また機会がありましたら是非日本に行きたいと思います！もしまた日本に行ったらまた大好きな日ポ・サロンの皆さんと会いたいと思います！ポーランドでも日ポ・サロンの皆さんをお待ちしておりますのでぜひ会いましょう！ありがとうございます。日ポ・サロン20周年をおめでたうございます！！

第17期（2018年）招聘留学生 ルチニスカ ヨアンナ（神戸大学）



こんにちは、ルチニスカ・ヨアンナと申します。神戸大学で日本語を学ぶことができました。この一年間は私にとって大事な成長への一歩ができました。留学は私にとって大きなチャンスでした。日常生活を通して日本の文化をより理解でき、そこでお互いの文化の違いとその共通点も学べる機会が学べる機会がありました。神戸大学で入学ができて良かったです。シラバスでは様々な日本語能力を上げるための科目がたくさんあって、とった授業で日本語をあやつる能力が伸ばせました。神戸大学の先生のおかげ、段々日本語のレベルと日本についての知識も高くなりました。聞き取る能力も上達して、日本語で話すことはもっと自信を持つようになったと思います。

日本語の勉強以外、色々なイベントに参加できて、新しいことをしてみる機会もありました。茶道の稽古をしたり、落語を聞きに行ったり、相撲さんの稽古と曲水の宴にも参加できたりしていました。想像以外楽しくて、素敵な思い出ができました。留学の間に日本の伝統的な家庭料理やお菓子を味わう機会もありました。秋は皆様と一緒に紅葉狩りして、秋の景色を眺めました。春は、花見を見に行きました。天気も良かったから、素敵な思い出になりました。夏の花火大会は非常に良かったです。今までアニメとかドラマだけで日本の花火を見ましたが、今回は自分でその特別な雰囲気を感じられてとても嬉しいです。

留学をしながら、沖縄、広島、名古屋、姫路、東京などに行けました。旅行中で素敵な期間が過ぎて長く記憶に残ると思います。日本の魅力を楽しめました。日本で生活を送りながら様々な新しい体験もできました。それを通して、楽しさ、寂しさ、ストレス、怖さが感じられました。驚いたこともいっぱいありました。例えば天気です。前の留学生から日本の夏は大変熱いと言われていましたが8月になって、自分自身でこの暑さを体験しました。想像したよりもっと蒸し暑いです。冬も寒かったです。

この一年間、たくさん勉強になり様々なところを見学できました。論文のために非常に大事な旅行でした、私は函館に行きたいと思ひまして、留学の時にそこへ行くことができました。土方歳三と強く結びついたところだけど、とても嬉しかったです。感謝しています。



日ポ・サロンが二十周年を迎えたというお知らせを受けて驚きました。設立されて間もない頃がまだうっすら記憶に残っているのに、もう二十年だなんて、あまりにもはやく感じました。しかしながら、何か営みをやりつづけるとすれば、それはとても永い年月でもあると言えます。日ポ・サロンでは、このように大勢の方々が団結することができ、時間を惜しまずに二十年も努力をしつづけてこられたことをありがたく思い、まずお礼を申し上げたいと思います。

ワルシャワ大学の日本学科を卒業した後、留学生として京都に来て今年22年目となりました。家族ができて子どもが徐々に大きくなっていくうちに日ポ・サロンから遠ざかったとは言え、留学生生活を始めた当初、その集まりやイベントに定期的に出かけて元気をもらっていました。日本の文化をより理解できるようになり、皆さんの一人一人と面白い話をするきっかけとなりました。ポーランド人の留学生が集まる場が他にはあまりない関西には、お互いに知り合い経験を交換できる重要な場も日ポ・サロンが与えてくれました。

このように、交流をしながら、ポーランドの留学生を支援する一方、コンサートなどの様々なイベントに参加したり、ショパンコンクールなどをきっかけにポーランドへのツアーを企画したりするという多面的な活動の形式は、どなたでも参加しやすい環境であり長続きの秘訣になったのではないのでしょうか。ポーランド人に日本のことを紹介する一方、興味のある方面からポーランドのことを探っていくというのは、一言でいえばお互いに知るきっかけを与えることになるので、そこに日ポ・サロンの強さがあると思います。

数多くの企画の中で私が特に印象に残っているのは、何年だったでしょうか、吉野へ出かけた遠足です。小さなグループになんとなく分け、またどこかの休憩をきっかけに別のグループに組みなおし、だらだらだけれど様々な話をしながら永遠に続く道路を歩いていました。記憶のある限り、ついにムササビに会うことはなかったと思いますが、自然もすばらしく建築物にも圧倒されるという環境において、時間をかけて実現できたこのような「歩き交流」からは、数多くの興味深い話題が生まれて有意義な時間を過ごすことができたと感じました。その後、その辺りへ行く機会がなく、あの時の日ポ・サロンとのお出掛けがなければ、未だに吉野を知らなかったかもしれません。



つい最近、「ポーランドと日本はとても仲よしだよ」と日本人の知り合いに言われた時に、九歳の娘は「だけど日本人はあまりポーランドのこと知らん」ときっぱりとした返事をしてしまいました。現状をよく表わすやり取りかもしれないと思いました。ポーランド人といえば大抵の相手は好感があるけれども、ポーランドについて「ショパン」などいくつか連想を除いて何も知らない日本人が殆どでしょう。ポーランドにおける日本の知名度の方が高いかもしれませんが、メディアなど一般の日本に関する認識は単純化された偏見めいたものも少なくありません。日ポ・サロンで実践される、一人一人の交流を通して両国を知るきっかけを与えるような丁寧な活動は、大量の情報が出回っている現代にこそ重要になっているような気がします。まだまだ日ポ・サロンのやる仕事が残されているように思いますので、これからも三十周年、またいずれ百周年を無事に迎えられることを心から願っています。



日ポ・サロンの世話になったことは、数え切れないほど多くありました。たくさんの面白いイベントに参加させていただいたこともあり、学費の支援をしていただいたことも感謝しています。博士号を取得できたのが日ポ・サロンのおかげだと言っても、決して過言ではありません。しかし、今でも一番印象に残っているのは、日ポ・サロンの皆さんの前で自分の研究の内容を紹介する発表会でした。なぜなら、その発表は大学の教授や同じゼミの大学院生以外、初めて自分の研究の成果を紹介する機会だったからです。

日ポ・サロンで報告をすることになったのは、2007年2月で、修士課程終了の直前でした。修士論文はもう既に提出しましたが、発表会の数日後、出された論文についての口頭試問が行われる予定でしたので、とても忙しい時期でした。最初は、それだけにタイトなスケジュールにまた発表を加えるのはどうも無理だろうと思いました。でも、結局「頑張ればできる」と思って、口頭試問の勉強を続けながら発表の準備を始めました。とは言え、その準備は全然スムーズに進んだわけではありません。少ない時間でできることは、まず論文の内容のまとめでしたが、研究テーマの「大正政変：第三次桂内閣の成立とその崩壊」は歴史家でない日本人の中でも詳しく知られていない話でしたので、どういうふうにその話を伝えたら聴講者が面白く聞いてくれるのかと、深く悩んでいました。聴講者には、賞賛にせよ批判にせよ、何らかの反応が欲しかった。あまりにも理解しづらい発表をしたら、誰の反応を期待することもできないでしょう。

結局、何とか報告で伝えたい内容を整えて、発表会に向かいました。しかし、十分に分かりやすい発表ができるか、聴講者に歴史的な背景を伝えることができるか、うまく自分の意見を主張できるかと、悩まずにいらませんでした。電車に乗って会場に向かう時も、発表を始める時も、その緊張感が和らぎませんでした。報告自体は、あまり覚えていませんが、報告が終わって、聴講者から意見と質問が出た瞬間は覚えています。聴講者から反応があることを見て、やっと緊張がほぐれて落ち着いた瞬間でした。後で考えると、私のその発表が特に良かったとは思いません。当時の私は準備の時間が少なくて、経験も浅かったのです。

幸い、日ポ・サロンには歴史の深い知識を持っている方が多くて、そのおかげで、私のプレゼンテーションに対する聴講者のレスポンスがそんなに良かったでしょう。意見の交換や質疑応答を行うことができ、新しい観点から自分の研究に対して意見や問題点を聴くことができました。初めて自分のアイデアを大学に持ち出した私にとってはとても貴重な経験で、今でも大切な思い出になっています。



日ポ・サロンの創立20周年記念日をおめでとうございます。

皆様、原 ビエレッカ ユスティナと申します。日ポ・サロンの皆様には大変お世話になった留学生の一人です。ポーランドの小さな田舎町で生まれ育ち、幼い時テレビで放送された日本の映画を見て遠くのこの国に惚れてしまいました。その後も日本の全てに興味深く感じ、地元で手に入る日本の小説を全て読み、オリンピックなどで活躍していた日本の選手を熱心に応援していました。高校生だった時、日本学科に入学することと日本語を勉強することは私の夢になりました。周りにそんな学部が存在すら知られず、両親を含め、入学試験に合格できると思われていなかったそうです。無事に合格し、大学で夢だった日本語の勉強を始めました。

京都に行ったり、能の舞台を見たり、日本の行事、習慣など教えていただいたりしたことは決して忘れられない思い出となっており、特に吉野への旅で感じた癒しは今でも鮮明に記憶しています。4月の晴れの日で、少し涼しかったですが、日ポ・サロンの皆様とポーランドの留学生は共に当時あまり咲いてなかった桜の木を探していたり、会話をしたり、とても楽しく時間を過ごしていました。

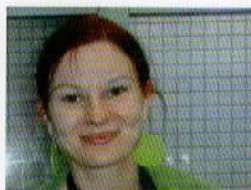
留学の期間が終わったらポーランドに帰って、ワルシャワ大学で勉強を続けていました。森嶋外と原田直次郎について論文を書き、2006年に大学を卒業しました。初めて日本で積んだ経験、知識を使用させていただいたのはアルバイト先のJICAとポーランドの政府の共同プロジェクトであった日本ポーランド省エネルギー技術センターでした。その後、液晶テレビの部品である反射フィルムの加工をする会社Kimoto Polandと在ポーランド日本大使館の領事部などで働いていました。

大使館で仕事をしている間にポーランドで5年駐在をしていた主人に出会い結婚をしました。しばらくし、主人の帰国が決まり、共に私も再び来日しました。日本で2人の男の子を産み、次男が3歳になってから、奈良ロイヤルホテルのフロントで仕事をさせていただいています。長男は今年から小学生になり、次男は幼稚園生の年中です。4人家族の幸せの毎日を生駒市で過ごしています。去年も京都で皆様とお会いできてとても嬉しかったです。久しぶりにお話しできて楽しく時間を過ごせたのはとても幸せでした。



日ポ・サロンは創立されて以来、日本とポーランドの文化・イベントを通してお互いの国に紹介し、数多くのポーランド人の日本での活躍を支えていただきとても感謝しています。

これからも暖かい応援を宜しくお願いします。



片岡カロリナと申しますが、旧姓はカミンスカです。ポーランドのワルシャワ近くの出身で、8年くらい日本に住んでいますが、日ポ・サロンにお世話になっている方が長いです。元々2009年の9月にワルシャワ大学の日本学科の学生として初めて来日し留学先は、同志社大学の日本語・日本文化教育センターでした。新しい生活が始まって、驚きや発見、困った事もある中、日ポ・サロンの方々と連絡するようになって優しくしてもらって、日ポ・サロンとの長い付き合いが始まりました。数えてみればもうすぐ10年になります。その間、日ポ・サロンの総会、花見、紅葉、様々なイベントに招待してもらいました。おかげで楽しみが増えて、日本の様々な事を体験しました。例えば、記憶に残ったのは2010年の京都の男山での留学生として初めて楽しんだ花見です。その日、男山の山頂にある石清水八幡宮を訪れて、山からの眺めを楽しんで、おいしい物を食べてから、最後に「背割提桜並木」という魅力的な並木を歩いてきました。他の思い出は2013年の春に参加させてもらった「曲水の宴」で、西宮市の小さい川が流れる北山緑化植物公園で行われていて、参加者は平安時代の貴族の服装で歌を作って、読み上げているというイベントでした。普段は中々体験できない事で、1000年前の日本へタイムスリップをしたように楽しむことができました。最後に日ポ・サロンの皆さんと会ったのは2018年の京都、祇園白川で行われた花見です。その時、3歳弱の長男と参加させていただきました。元気な子共で、皆さんにとっても優しく可愛いがってもらいました。

留学が終わって、大学を卒業してから、日本人と結婚しました。2013年の秋、京都で結婚式をあげましたが、うれしいことにお客さんの中に日ポ・サロンの方4人も来て下さいました。そして、私の両親をはじめ、ポーランド人も来ていました。自分の出身のことを考えて、可能な限りポーランドの結婚式のしきたりも入れてみました。例えば、ミサが終わってから、披露宴が始まる直前ポーランドらしく私の両親はポーランドで主食であるパンと悪を追い払う塩を持って、私達、新郎新婦の迎えに出てきてくれました。そういうふうにしてもらうおかげで、今からの人生に食べ物足りないとか、悪いことに遭うこともないようにと両親の願いが含まれています。

今は大きな悩みもなく、満足できていると思っています。ポーランドの家族から離れた所に住むようになりましたが、ここにも頼りになる人が多いです。4年前に長男、2年前に次男が生まれて、家族が増えました。やんちゃな男の子がいるので、毎日はバタバタで疲れています。とはいえ、楽しい事もいっぱい、とてもかけがえのない時間だと感じています。今年の春から長男は年少さんになりました。特に制服で登園の日のその姿に思わず感動してしまいました。育児や家事、そしてパートの仕事で忙しくしています。数ヶ月前から京都の伏見区で観光にかかわる仕事をするようになって、日本語も英語も使えてとても満足しています。上司も優しく、数週間をかけてポーランドに行けるほど長い夏休みも許してくれました。

実は今、ポーランドの実家でこの文章を書いています。長男は4回、次男は2回ポーランドに連れてきています。私達は、両親にいっぱい甘やかしてもらっています。ポーランドは子供が楽しめる場所が多く、特に気に入っているところは、近くを流れているシィフィデル川です。とても浅く、流れが遅くて安全で誰でもくつろげる綺麗な川です。ポーランドを訪れたら穴場としてお勧めです。チャンスがあれば、是非、水遊びしに来てみてください。





日ポ・サロンの皆様、この度は設立20周年おめでとうございます。元代表の河合様、現代表の高島様をはじめとし、日ポ・サロンのメンバーの皆様には長年に渡りサポートや応援を続けていただけたこと、心から感謝しております。私はこの10年半を日本で過ごし、様々な国から来た人々と話をする機会も多かったのですが、彼らの話を聞く限り、私のように手厚く迎えられ、心からのあたたかなサポートを受けることは非常に稀であるということが分かりました。そのようなご支援をしていただけて、日ポ・サロンは私にとって特別な存在です。皆様のおかげで普通の留学生だったらなかなか経験できないことを体験したり、訪れることのない場所に行ったりすることができました。例えば、大江能楽堂で能面をつけて実際に演技を体験すること、天龍寺、書寫山の圓教寺、石清水八幡宮、信貴山、比叡山など様々な寺院の僧侶の方々と実際に会話をし勉強させていただけたこと、連れて行っていただいた地域、土地のおいしい料理を食べさせていただけたこと、挙げればきりがありません。京都だけでなく、大阪、奈良、滋賀、兵庫といった関西圏を広く巡ることができました。このような経験は私にとって、日本という国が持つ多様な側面を知るきっかけとなり、日本をより深く理解することにつながりました。

日ポ・サロンでのことを振り返ると、特に皆様と出会った第1回目のことが強い印象と共に思い起こされます。なぜならそれは、現在の私がどこで何をしているかということに深く関わっているからです。皆様のなかにご記憶されている方はいらっしゃるでしょうか、私が初めて日ポ・サロンの皆様と出会ったのは、なんと今から13年前の2006年です。その頃は、私は京都ではなく、静岡に住んでいました。当時23歳の私は、春に、青春18きっぷを使って西日本への列車の旅に出かけました。長崎、別府、福岡、とめぐり、京都にも訪れ、その際日ポ・サロン会員の岸本様、ご主人の新兵衛様ご夫妻のご厚意によりご自宅へ泊めていただきました。天橋立と大江山の鬼博物館に連れて行っていただき楽しい時間を過ごしました。またその滞在中、岸本様は私を日ポ・サロンの春の遠足にも誘ってくださいました。参加者のなかで、関西を拠点としていないのは私だけでした。この遠足で、私は初めて日ポ・サロンという団体の存在を知ったのです。当時、母国ポーランドに興味を持つ人々の集まりがあること、さらに私にも関心を抱いて話しかけ、友好的に接してくださる人々がこんなにたくさんいることを初めて知り、感動しました。それ以前の私の日本での生活は、日本を学び理解し、なおかつ不慣れな日本社会でサバイバルすることに留まっていました。静岡県には他のポーランド出身者が1人もおらず、またなじみのない東欧の国から来た私に興味を持つ現地の人もほとんどいませんでした。だからこそ50名以上参加したイベントに来て、その全員がポーランドのこと、その歴史文化を知り、政治面なども含めそのほか様々な面で興味を持っていることにどれだけ私が驚いたか、ご想像いただけるのではないのでしょうか。遠足での散策中でも、観光中でも、食事中でも、写真を撮るときにも、必ず誰かが私に声をかけたり、何かを説明してくれたり、親切に笑顔で接してくれていました。私にとってはこれが新鮮で特別で、とても勉強になる経験でした。その情景は月日が流れた現在でも色あせることなくはっきりと覚えています。

この遠足は桜が咲く頃の宇治でした。まず、とても珍しい中国風の禅寺である萬福寺に皆で行きました。とても大きくて黄金に光る布袋さまの像に衝撃を受けたことを覚えています。その後、そのお寺のお坊さんの食事である普茶料理という、精進料理の一種をいただきました。これも新鮮な経験と学びになりました。お坊さんが肉食をしないことは知識としては知っていましたが、精進料理にはこんなに味の組合せ、アレンジが豊富で、食感だけでなく視覚的にも遊びがあることは、想像もしていなかったので驚きでした。日本料理にはこのような工夫がいくつもあるとは！

続いて平等院を訪れ、ワルシャワ大学の日本学科の授業で学んだ鳳凰堂の阿弥陀像をやっと実際に見ることができました。その後は宇治川沿いに向かい、散歩をしました。宇治川と言えば、日本学科の私たちにとっては、どの授業でも題材にされ、翻訳の練習として使ったりした、あの、『源氏物語』に登場する場所です。やっと来ることができた！最後に、抹茶と和菓子をいただく体験もしました。抹茶と和菓子は以前にも試したことはあったのですが正直に言うとそのときはあまり口に合いませんでした。ですが、今回は宇治産の抹茶と新鮮な生菓子だったので、その桁違いの質に驚き、とても美味しく味わえました。この日以来には、お茶と生菓子に心を奪われ、今では大好物になりました。

こうした各経験で、日ポ・サロンのメンバーに囲まれ、丁寧に解説をしていただき、物事を見せていただき、教えていただきました。この日ポ・サロンの皆様と一緒に経験した遠足は、私に大きな印象を残し、一生の思い出になりました。私の未来に影響を与えた出来事の一つに違いありません。なぜならその後、静岡大学での留学を終え、ポーランドに帰国した際、再び日本、関西、そして京都に戻ると決めたからです。

ワルシャワ大学の修士課程を修了し、日本文部科学省の奨学金を得て、京都大学の大学院に合格し、2009年の4月から日本に戻ることができました。京都に着いて、新しい生活を始める私が住むことになった学生寮は、なんと、宇治にありました。なおかつ、3年前に日ポ・サロンの皆様と訪れた萬福寺のすぐ近くだったのです。毎日京都大学に宇治から自転車で通うとき、萬福寺の前を通ったものです。

それ以来、私は京都大学で勉学に励み、文学研究科現代文化学専攻二十世紀学専修で修士論文を書き、修士号を取得、博士課程も修了しました。現在は京都大学の非常勤講師を務めながら、アメリカの歴史学習に特化した旅行会社Context Travelでも働いています。この会社は学者を専門ガイドとして雇用し、実際に街を歩きながら講義を行うプランを提供するものです。京都に住み、自分の専門を生かした仕事をしながら、博士論文提出に向けて頑張っています。

この数年の間、様々な折に皆様にお会いし、何度もお世話になりました。私は今、日本にいて、興味のあることを行い、毎日が小さな冒険のような生活を送っていますが、それは大いに皆様のおかげです。この数年にわたっての応援、ご支援に、心から感謝しています。皆様と出会えた先輩後輩も同じ気持ちだと思います。これから来日するポーランドの学生には、私と同じような素晴らしい体験をしてほしいと願っています。皆様の優しさ、あたたかさ、友好的な歓迎などの支えを感じることで、彼らもきっと大きなまたとない留学生活を送ってくれることでしょう。

最後に改めて、日ポ・サロン設立20周年、誠におめでとうございます。つぎの20年30年、それ以上続けられるであろう皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

応援留学生 ヤコブ マルシャレンコ（大阪大学）

いつもお世話になっております、ヤコブ・マルシャレンコです。ポーランド人留学生をいつも優しくしていただき心から感謝申し上げます。

実は私は、帰国しておりません。大阪大学で修士号を取得した後、名古屋外国語大学大学院において、2017年9月に博士号を取ることができました。

2016年4月～2019年3月の間、同大学の国際交流部という部署で、主に留学プログラムを担当して、職員をしていました。

今年4月からは、また名古屋外国語大学の国際日本学科（世界教養学部）において教員をしております。担当科目は、主に通訳翻訳、発信日本文化、また英語関係の内容を教えています。その傍ら、研究も行っており、専門分野は司法（主に法廷）通訳翻訳です。また、授業のない時には法廷通訳人を務めることもあります。お役に立つかどうかはわかりませんが、以上は私の近況です。ご質問等がございましたら、ご連絡いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。日ポ・サロンのみなさまのさらなるご多幸を祈ります。



応援留学生 ナタリア ガルボッチ（神戸大学）



私はナタリア・ガルボッチと申します。ヤギェウォ大学の日本学科の学生で、2017年に神戸大学に一年間留学していました。私はウルシュラ・アルトマイエルさんと国維寮に住むことになって、ポーランドで違う大学に通っているのに彼女と非常に仲良くしました。そして、ウラさんを通して日ポ・サロンの皆様を知りました。当時、私は初めて日本に来ましたので、色々な疑問を抱いていましたが、皆様の手伝いと親切さのおかげで日本の生活に早く慣れてきました。ウラさんと一緒に色々なところ（広島、東京、姫路など）に旅行しましたが、日ポ・サロンの皆様をご招待してくださったイベントは一番楽しかった思い出の一つです。例えば、皆様と一緒に万博記念公園に紅葉狩りに行って、京都における花見にも参加しました。このイベントだけではなくて、大変お世話になりました。高島さんの推薦のおかげで日ポ協会が行っているポーランド語の授業にも手伝うことになりました。そして、面白いコンサートと行事に参加することができました。澤山さんは私たちをよくお宅に誘ってくださって伝統的な日本料理を準備しました。奈良に行った時、田中さんは私たちと一緒にたこ焼きを食べて法隆寺をご案内してくださりました。

日ポ・サロンの皆様はいつも親切で、面白い話をして、どんなことでも手伝ってくださりましたので、感謝の言葉もございません。日本文化・料理・雰囲気を楽しみじみと味わってポーランドに全然帰りたくなるほど楽しかったです。皆様のおかげで充実した留学とたくさんのいい思い出ができて、日本への留学は私の想像を超えました。一年間はあっという間に終わってしまいました。

ポーランドに帰国した後、私は5年生になって修士課程を続けました。今のところ、私はポーランド語の古語法の訳し方についての論文をすぐ書き終わって9月に論文の口頭試問を受ける予定です。

6月に就職活動も終えて10月まで日立のクラクフ支部で会計士の訓練を受けています。仕事で日本語の代わりに主に英語を使いますが、日本会社に就職できて非常に嬉しいです。日本はとても懐かしいので、いつか日本に帰るようこれからも頑張ります。

日ポ・サロン創立20周年、誠におめでとうございます。今までのご功績に敬意を表すとともに、未来に向けて皆様のますますのご発展とご健勝を心よりお祈りいたします。

☆編集後記☆

日ポ・サロン20周年を記念して、冊子を作成することとなりました。

今までの活動資料や会報などを紐解きながら、役員みんなでページを作成、校正を重ねてようやく発刊へとこぎつけました。高島代表からワルシャワ大学や神戸大学の先生方、招聘留学生、応援留学生の皆様に原稿を依頼していただき、届けていただきました原稿・写真をどのように紙面におさめるか、パソコンの前に数時間座らない日はないくらい20年誌作成に没頭しました。

今までかわりのあった留学生が、卒業後どのような毎日を送られておられるのか、原稿拝見しながら懐かしさがこみ上げて来ると同時に、連絡取れなかった方々についてはとても残念に思いました。

日ポ・サロンは、これまで試行錯誤しながら、各先生方の協力と会員のアイデアで、この20年間絶えることなく続いてきましたが、時とともに会のあり方、考え方も変わってきました。そのなかで日ポ・サロンは、これからの国際交流をどう捉えるのか、またどのように活動していくのか20年誌の編集に係っていくうち、私たちに課せられた大きな課題に改めて気づかされました。

依頼にこたえて寄稿してくださったワルシャワ大学と神戸大学の先生方、招聘・応援留学生の方々のご協力でこの20年誌は完成致しました。

日ポ・サロンのこの20年の歩みをご覧になり、これからの私たちの活動に対して更なるご協力をいただけましたら、編者一同過分の喜びです。

(田中サヨ子)

高	島	和	子
岸	本	啓	子
澤	瀧	徹	郎
吉	岡	久	代
田	中	サ	ヨ子
長	岡	正	
川	端	佳	子
松	下	仁	美
大	和	田	隆



発行：ポーランド留学生支援団体

日ポ・サロン Since 1999

(事務局)

〒573-0084

大阪府枚方市香里ヶ丘6-14-6

長岡正

TEL・FAX 072-852-2147

発行日：2019年9月

<http://nipposalon.com/>